項目ごとの分析

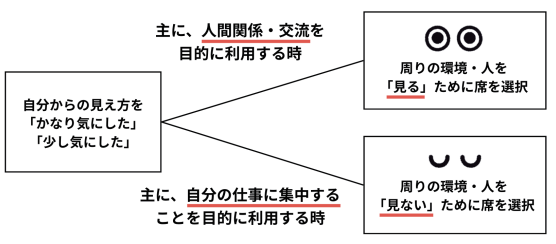
座席選択時の認知の項目ごとの相関関係を算 出した。認知の要因についての質問には「かなり気にした」「少し気にした」「あまり気に しなかった」「全く気にしなかった」の 4 択で回答を収集し、中程度の相関が見ら れた項目が 5 つあった。

認知の要因についての質問には「かなり気にした」「少し気にした」「あまり気にしなかった」「全く気にしなかった」の 4 択で回答してもらい、気にした度合いが強い順に 1〜4 点の点数を付け、相関関係を算出した。0.7 以上を強い相関、0.4〜0.7 未満を中程度の相関、0.2〜0.4 未満は弱い相関、0.2 未満はほとんど相関なしと定義する。

	他の人からの目線	自分からの見え方	他の人との距離	聞こえる周りの音	自分が発する音	インテリアの使い心地	照明
他の人からの目線	1	0.52	0.04	0.28	0.1	0.19	-0.04
自分からの見え方	**0.52**	1	0.14	0.44	0.2	0	-0.29
他の人との距離	0.04	0.14	1	0.55	0.03	0.45	0.22
聞こえる周りの音	0.28	**0.44**	**0.55**	1	0.39	0.3	0.19
自分が発する音	0.1	0.2	0.03	0.39	1	0.18	0.28
インテリアの使い心地	0.19	0	**0.45**	0.3	0.18	1	0.42
照明	-0.04	-0.29	0.22	0.19	0.28	**0.42**	1

「自分からの見え方」

利用者へのヒアリングでは、「他の利用者が見えないようにするためにこの席を選択した」という回答と「他の利用者を見ていたいのでこの席を選択した」という回答がそれぞれ複数あり、「見ない」ために席を選択した利用者と「見る」ために席を選択した利用者、相反する意図を持って席を選択している利用者が両方いることが分かった。
特に、他の利用者と挨拶や交流をしたい利用者は「見る」ために席を選択し、自分の仕事に集中したい利用者は「見ない」ために席を選択していることなどが分かった。



「インテリアの使い心地」

利用者へのヒアリングでインテリアの使い心地に関する回答では、椅子の素材と形への言及が多かったことから、利用者はインテリアの中で特に椅子の素材と形を座席選択の要因にしていることが分かった。また、利用時間が長い利用者や、仕事の集中度合いが高い利用者ほどインテリアの使い心地を気にしていることも分かり、ヒアリングでは、「長時間座っても腰が痛くならない椅子を選んだ」「長時間利用しても使いやすい椅子と机を選んだ」などの回答があった。

利用時間とインテリアの使い心地を気にする度合い

	かなり気にした	少し気にした	あまり気にしなかった	全く気にしなかった
30 分〜1 時間利用	0	0	1	0
1 時間〜2 時間利用	0	6	4	1
2 時間〜3 時間利用	4	3	0	3
3 時間〜6 時間利用	2	1	1	0
6 時間以上利用	2	2	1	0

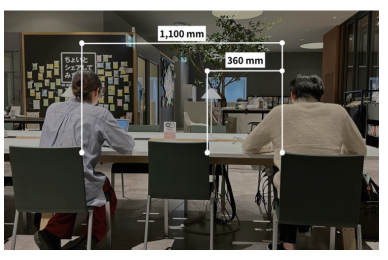
仕事の集中度合いとインテリアの使い心地を気にする度合い

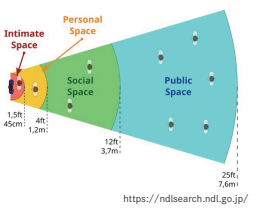
	かなり気にした	少し気にした	あまり気にしなかった	全く気にしなかった
かなり集中力を要する仕事をした	4	2	0	0
少し集中する仕事をした	1	7	8	4
集中力を使わない仕事をした	0	2	0	2

「他の利用者との距離」

ヒアリングでは、特定の席番号と人物に言及した回答があったことから、利用者は空間の中で誰がどの席に座っているかを具体的に認識し細かく考慮したうえで座る席を選択していることが分かった。また、他の利用者との距離の項目をかなり気にしたと回答した人が最も多かったのは長机②のエリアの利用者（n=6）で、ヒアリングでは「他の利用者が隣にいるときは最低でも 1 席空けて座る」という回答が複数あり、利用者は 1 席分以上の距離を空けて座ることで他の利用者との間の個人空間を確保できるように席を選択していることが分かる。

また、利用歴が長い人ほど他の利用者との距離を気にしており、ヒアリングでは「仕事に集中するために、知り合いに話しかけられないように遠くの席に座る」という趣旨の回答が複数あったことから、利用歴が長く知り合いが多い利用者ほど、仕事に集中するために話しかけられにくい席を選択すると考えられる。
これらより、利用者はイノベーションサロンで人と出会えることに価値を感じて利用する一方 で、仕事を目的に利用する際は、自分の意図と関係なく話しかけられる状況を回避するために他の利用者との距離を保てる席を選択すると考えられる。





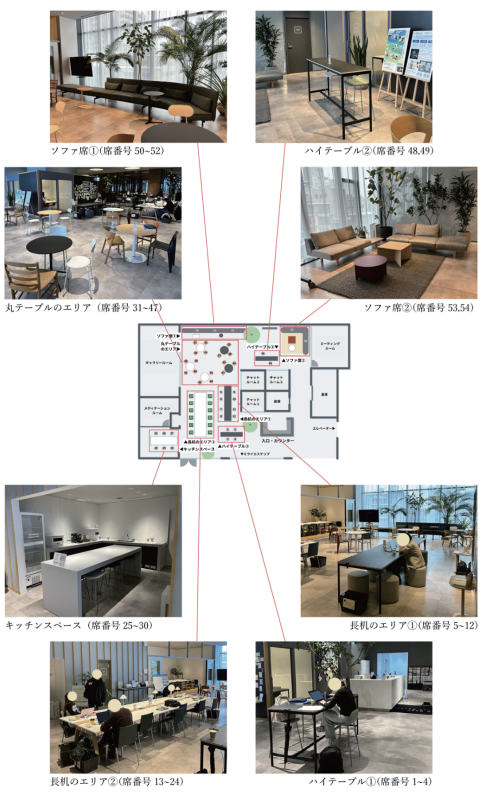
https://ndlsearch.ndl.go.jp/

利用歴と他の利用者との距離を気にする度合い

利用歴	他の人との距離を気にする度合い
1 ヶ月以内（n=3）	1.00
2 ヶ月以上前から（n=3）	3.00
6 ヶ月以上前から（n=9）	2.67
1 年前から （n=7）	2.86
1 年半前から（n=7）	3.14
1 年半以上前から（n=2）（旧 NaDeC BASE から利用）	3.00

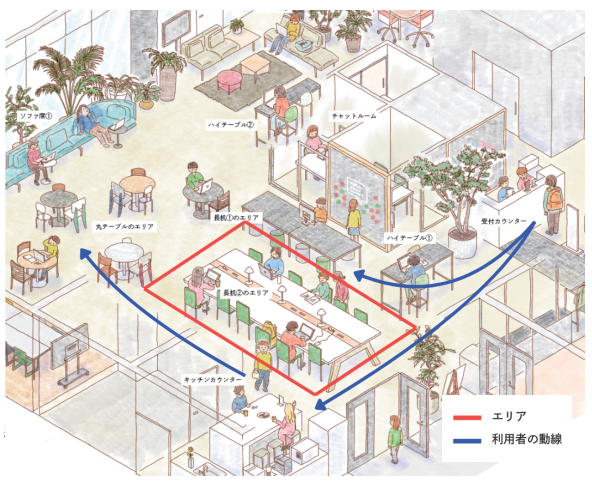
席のエリアごとの分析

以下は席のエリアごとの分析である。席は満遍なく利用されていることが分かる。



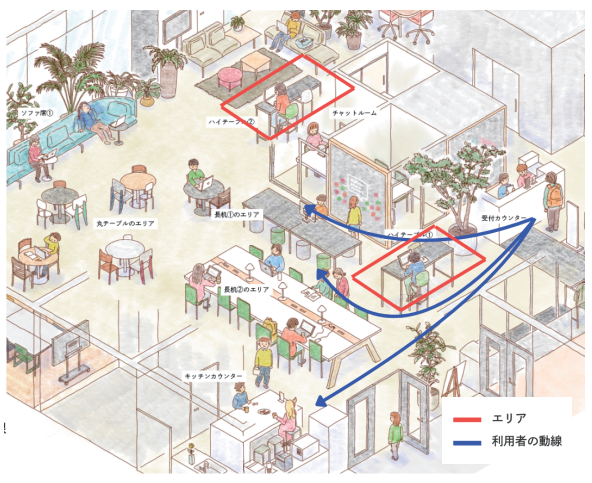
「常連」利用者が多い長机②のエリア

エリアでは「他の利用者との距離」を気にして席を選択した人が最も多いことが分かった。長机②のエリアはイノベ ーションサロンの中で最も利用者が多い席であり、長机②のエリアの利用者の利用頻度が最も高いことから、このエリアには「常連」利用者が多いことが分かった。
長机②は共有の大きな机に 12 席の椅子が並んでおり、2,3 人で使用することが想定された丸テーブル等と異なり、個人で使用する人が 1 人で座りやすい席であるため、個人で集中して仕事をしたい人に選択されやすいと考えられる。
また、個人で集中して作業することだけが目的であれば普段のワークスペースは自宅やカフェ等で機能としては満たしているが、イノベーションサロンを選択する理由として顔見知りの人間関係があることに価値を感じているためだと考えられる。長机②の席は人の往来が多く、通りすがりに挨拶や雑談が多く生まれている場所であり、座って仕事をしながらでもすぐに人と話せる位置にあるため、利用者はワークスペースの機能として個人で集中できる席の機能と、仕事をしながらでも挨拶や雑談を交わすことができる両方を叶えられる席として、長机②の席が常連の利用者に選択されていると考えられる。



場所によって利用頻度が変わるハイテーブル①,②

ハイテーブル①と②は同様のインテリアのセットが置かれているが、空間の奥にあるハイテーブル②の方が多く利用されていた。
ハイテーブル①が同様のインテリアであるにもかかわらずワークスペースとして選択されていないのは、ハイテーブル① が受付とオープンスペースの動線上にあり人の往来が多いため、集中して仕事をする場所に向かないためだと考えられる。また、4 席あるどの席に座っても背後から人に見られるため、背後から見られたくない利用者から選ばれない席であると考えられる。
ハイテーブル②の利用者は他の利用者との距離を気にして座席を選択した人が最も多かった。このエリアはチャットルームを挟んで受付から見えない位置にあるため人の往来が少なく、挨拶や雑談が交わされることが多い長机②のエリアからも離れていることから、他の利用者から離れて 1 人で仕事をしたい利用者に選ばれていると考えられる。

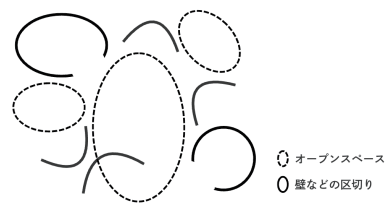


まとめ

イノベーションサロンの特徴

自宅やカフェ等ではなくイノベーションサロンをワークスペースとして利用する理由について自由記述する項目では、全体のうち 47.8% が機能に言及し、39.1% が人間関係に言及した。機能に関しては「ミーティングスペースがあり集中しやすい」「学生なのでバス券がもらえる」などの回答があり、人間関係に関しては「新しいことに挑戦している人に刺激されるから」「相談できる人が多いから」「知り合いと会えるから」などの回答があり、コワーキングスペースを利用する要因に他利用者との人間関係も影響していることが分かった。
イノベーションサロンの特徴として、首都圏のコワーキングスペースと比較して利用者数が多くないため、コミュニティマネージャー等の仲介役を介さなくとも利用者同士で関係性を構築できていることが分かった。また、利用歴が長く利用頻度が高い「常連の」利用者が多いことや、利用者同士の人間関係も座席選択要因になること、全体の傾向としてオープンスペースの中にいながらも程よく個人の空間を作れる席が好まれることが分かった。

提案

今後の同様のコワーキングスペースの設計時には、利用者が交流したい場合も個人の仕事に集中したい場合も、どちらでも居心地よく過ごせるような空間設計が必要であるため、利用者がオープンな場にいながらも、程よく個人の空間ができるような区切りを設ける設計が必要であると考えられる。

オープンスペースの中で「ほどよく空間を区切る」概念図